

盤の礎石・亀の形の石

家光の霊廟への参道沿いにあるのが、この小さなドーム型の石の蓋です。これは、礎石に彫られた、旗ざお設置用の「穴」を隠すための蓋です。旗竿は、葬式や祭りなどの特別な機会に、通路を飾るために利用されます。(盤の穴の)起源は、家光の息子・家綱（在位 1651-1680）の統治時代にまでさかのぼり、今日まで使用されているのです。形が亀の殻に類似していることから、亀の足を真似て、土台の周りに小さな石が置かれている様子が、時おり見受けられます。これは大猷院への参拝客が(小石を)運んできたもの。輪王寺の周りの様々な場所で、このような石を見つけることができます。